MARITIME　INTERNATIONAL 2013　　第２号　2013/6/13

〈東京都立大島海洋国際高等学校　　TEL:04992-4-0385　FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html

Ｉ類国際航海学習

使命を全うする

校長　大　塚　健　一

先日、Ｉ類一次国際航海学習の引率を終えて釜山から帰国しました。二年生社会系先発組 15 名の成長はすばらしいものでした。

この国際航海のミッション(使命)は２つあります。大きな目的は隣の国と仲良くすること。在日大韓民国大使館の金参事官のお話のように「政治は色々とありますが、教育は教育」という理念に値するものです。外国に上陸する上で考えてほしい事は、節度とマナーを持ち、東京都を代表する高校生として、日本の民間大使としての姿勢を忘れずに行動すること。そして、本校の校訓「誠実 Faithfulness・礼節 Courtesy・協力 Cooperation」の精神をチームで全うすることです。

彼らは実際に次の内容を体験しました。まず、この航海は大島から関門海峡へ通過して大韓民国へ向かいますが、四国沖の外海では大きな揺れを体感します。そして船内で皆が協力して動かなければ課業は進まなくなります。例えば食事の準備、片付け、清掃を行う場合に酔いに負けている生徒は他の生徒に助けられ、助ける生徒は自分の強さや自信を身に付ける事ができます。乗船中での協力、助け合いで課業が進み、自らの苦難の中で他者に助けてもらう事から感謝の気持ちが芽生えます。乗船した生徒らの絆は日々おう毎に深まりました。

大韓民国への上陸では、釜慶大学での交流プログラムの準備、見学地での文化、歴史を学び、東京都の生徒としてのアイデンティティーを発信することです。それに応えるには事前の学習が必要になります。韓国の歴史、文化について詳しく調べることで、日本と韓国との歴史上の接点や隣の国こそ仲良くする必要制を理解してきます。例えば、見学中に釜山タワーの公園内に銅像がありましたが、生徒から「インスンシン」だ。するとガイドさんは「知ってますか？」。「はい、水軍の大将でしょう」。ガイドさんはこのやりとり以降、生徒らに敬意をもって接するようになりました。制帽・制服、行動、知識、改めて東京、いや日本の高校生への凛々しさを伝えられる

場になりました。また、国際交流の場では英語を道具にして本校の紹介を軽々と自信を持ってプレゼンができました。国立釜慶大学の教授人には本校生徒の英語力や留学への感心度の高さを伝えるなど、様々な場面で国際交流の使命を果たしてくれました。

今回の社会系のＩ類国際航海では、２つの使命を果たした彼らの成長は逞しく、国際人としての感覚や社会貢献をする姿勢を身に付ける上で彼らに大きな影響を与えました。

【生徒感想】 乗船の感想

２年Ａ組　市村　直詩

私は今回の乗船で沢山のことを学ばせていただきました。たったの１４日間でしたが、それ以上に充実した航海となりました。

私が今回の乗船で一番印象に残っていることはやはり国際交流です。日本の大学生ですら交流したことがない私がいきなり外国の大学生かと正直不安もありましたが、それ以上に楽しみの方が強かったです。実際に交流してみて意外と日本からの留学生が多かったので質問しやすかったですし、それ以上に明るく接してくれてありがたいなと思いました。また、日本からの留学生だけでなく、韓国人の方も日本語が上手で大学生ってすごいなと思いました。

私が大学について驚いたことが他にも沢山あります。一つは高校の寮との環境の違いです。部屋が広くきれいで正直うらやましかったです。また、大学の各施設もきれいで過ごしやすかったです。

私は今回の大学訪問で留学という選択肢もあるなと思いました。私の今までの留学に対して『恐い』という想いが強かったのですが、その想いが大きく和らいだように感じました。

私は今回の乗船で周りの人全てに感謝しなければならないと思います。まずは何と言っても仲間です。私が船酔いで動けずにいたときに、動いている仲間がいました。苦しいのはみんな一緒のはずなのに、動いてくれている仲間がいると思うと本当に申し訳ないことをしたなと思いました。また、船員の方々には本当にお世話になりました。自分達の班はワッチが一番多く「またこの班か」と言われましたが、その都度いろいろなことを教えていただきました。また、私たちが苦しいのと同じように船員の方々も苦しいはずなのに表に出さずに黙々と仕事をこなし、さらに生徒に対する講義なども行っていただき本当にすごいと思いました。そして、今回の乗船で船員さんの名前と顔もだいぶ一致してきました。ここで終わりを迎えるのは寂しいですが、船員さんたちに教わったことを忘れないように今後も頑張っていきたいです。そして、教官の先生二人には本当にお世話になりました。時には怒られ、時には面白い話をしていただき、ここまで楽しくやってこられました。本当にお世話になったと思います。

私が良かったと思ったことの一つに校長先生と乗船できたということが挙げられます。こんな身近に校長先生と過ごせるなんてすごく貴重な思い出で、一生忘れないと思います。

私はこの乗船で学んだことをどう活かせるかは分かりませんが、活かせる時にはしっかりと活かして、これからの学校生活を一日一日頑張っていきたいです。

宿泊防災体験

５月１０日(金)、第一学年全員を対象に宿泊防災体験がおこなわれました。東日本大震災の教訓を活かして、災害に備える心構えを養うと共に、都内での帰宅困難に対する準備として行いました。津波に備えての第三中学校グランドまでの道を確認すると共に、分担して避難所の設営、救命講習を行い、全員で津波の映像を視聴しました。非常食はアルファ米の白米とワカメ御飯。就寝も毛布１枚だけというものでした。災害時の大変さを改めて感じるものとなりました。

安全指導の日

５月１３日は、平成７年同日に起こった海難事故を忘れないように、安全指導の日としています。一部として体育館において全校集会をおこない、当時の事故について説明する他、海岸での事故防止についても確認しました。その後、二部として玄関前の慰霊碑前に集合し、碑文を朗読し、黙祷を捧げました。

大島南部散策～K.M.T　海国ミッションツアー～

１学年　「総合的な学習の時間」担当　笹井拓也

５月１８日（土）の１～４時間目の総合的な学習の時間を利用して、１学年全員で大島南部散策にでかけました。今回は、波浮港周辺に用意された【１８の写真ミッション】をクリアするという形式をとりました。たとえば、【波浮港を開港した秋広平六の像と同じポーズで写真を撮れ！】といったものです。生徒は携帯電話で撮影した画像を、その場で本部パソコンにメールで送信します。本部がその写真を確認し、ミッションクリアとなります。各ミッションにはその内容に応じた点数が用意されていて、それを競います。生徒は面白がって次々に本部に画像を送信してきました。

生徒たちは、おもしろかった！楽しい写真が撮れた！というだけでなく、大島の自然や歴史に大いに触れることができたようで、「先生！大島ってめっちゃ奥が深いですねー！」と喜んでいました。この言葉を聞いたとき、この南部散策の目的が達成されたなと感じました。

自分たちが暮らす地域への理解を深めることができ、この地で貴重な高校３年間を生きる生徒たちにとって、非常に有意義な時間になったと思っています。

【秋廣平六翁の銅像は、右手で工事をした波浮港口を指し、左手をかざして故郷の房総半島を眺めています。銅像の目の高さからは、波浮の町越しに房総半島が見えるそうです。】

教育実習

６月３日から２８日まで、教育実習がおこなわれます。大学によって期間は違います。前期は４名の卒業生が来ています。

濱美世（１期生）東洋大学：世界史
成島亮如（１期生）北里大学：生物
永井悠仁（２期生）東邦大学：生物
佐々木祐太（２期生）日本大学：体育

部活動遠征報告
セーリング部
インターハイ出場決定

都大会

男子　1位、2位、3位　入賞

女子　1位、2位　入賞

関東大会(6/7～9)

ソロ競技　　男子　10位

女子　3位、4位

デュエット競技　　女子　1位

男女インターハイ（高校総体）出場決定

サッカー部遠征報告

１回戦　4/28（日）　於　東京成徳学園大原グラウンド

対私立渋谷教育学園渋谷高等学校　２－１で勝利

２回戦　5/3（金）　於　東京成徳学園大原グラウンド

対私立正則高等学校　２－６で敗戦

（私立正則高等学校はその後3回戦を２－０で勝利し、都大会出場）

バレー部遠征報告

インターハイ予選（５月２６日）

１回戦　　対　雙葉　２－０（１セット目２５－１８　　２セット目２５－２１）

２回戦　　対　愛国　０－２（１セット目２２－２５　　２セット目２２－２５）

テニス部遠征報告

４月　インターハイ予選（個人シングルス）女子４回戦（２日目）進出

５月　インターハイ予選（個人ダブルス）女子３回戦進出

インターハイ予選（団体）女子２回戦進出

水泳部遠征報告

東京都高等学校春期水泳大会

100ｍ自由形、100ｍバタフライ、200ｍリレー、50ｍ自由形、100ｍ平泳ぎ、200ｍメドレーリレーに出場。個人で３名、またリレー種目で都大会へ出場します。

バスケットボール部遠征報告

５月２６日（日）東京都選手権大会兼全国大会都予選（場所：高輪高等学校）

結果　　大島海洋国際　　４９　－　１００　　日本大学櫻丘

ボランティア部活動報告

６０台目の車椅子を大島社会福祉協議会に寄贈しました。